

## 総合評価

受診施設名	上里竹の子こども園	施設種別	幼保連携型認定こども園 (旧体系： )
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成28年12月15日

総 評	<p>「上里竹の子こども園」は昭和57年に保育所として開園し、平成28年4月より幼保連携型認定こども園に移行しました。京都市と向日市の境目の周囲に田畑の広がる地域に位置し、自然が多く残る地域にあります。</p> <p>「あかるく たのしい のびのびした保育」を基本理念に、子どもが健康で、安定した生活を送れるよう環境を整え、その中でのびのびと自己が発揮でき、ひとりひとりを大切にしたい保育実践に努めています。</p> <p>特に運動表現や造形表現に力を入れており、園内には子どもたちの作品を沢山掲示しています。また、家庭的な雰囲気醸成に努め、ゆったりとした空気が流れ、5歳児クラスの子どもたちが朝から昼食で使用する玉ねぎの皮むきを楽しそうに行ったり、園舎の隣の畑では、園長のリーダーシップのもと、子どもと保育者が野菜を栽培しては食事に取り入れたりなど、食育活動に取り組んでいます。</p> <p>また、職員が保育方針を理解した上で日々の保育を実践できるよう、マニュアルや会議・研修などの環境を整備するとともに、ゆとりある人員配置や有給休暇の取得促進など、園長が中心となって働きやすい職場環境作りに熱心に取り組んでいます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員の有給休暇の取得状況は定期的にチェックしており、取りやすい環境となっています。年に1回園長が職員と面談を行い、働きやすい職場にむけて改善策を人員体制に反映しています。</li> <li>● 職員一人ひとりが送迎時に保護者と細やかにコミュニケーションをとることで、信頼関係を築いており、園全体で情報の共有化がされ、保育に生かしています。</li> <li>● 室内環境において、穏やかな関わりとともに、ぬくもりが感じられる環境となるよう職員の手作りの保育用品を整備しています。</li> </ul>
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員の研修計画はありますが、今後は個別研修計画の作成や、研修後の評価・反省・分析などが園内で行われると良いでしょう。</li> <li>● 子どものけが等については、発生原因、防止策を検討し詳細に記録していますが、定期的に評価、見直しを行うとなお良いでしょう。</li> <li>● 自園の畑での収穫物の情報を利用者へ向けてアピールするなど、安全性や栄養面を表記した取り組みがあればなお良いでしょう。</li> </ul>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 【保育所版】 評価結果対比シート

受診施設名	上里竹の子こども園
施設種別	幼保連携型認定こども園
評価機関	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	平成28年12月15日

**保育所評価基準 対比シート**

**I 福祉サービスの基本方針と組織**

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	B	B
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	B	B
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	B	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	C	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	B
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	B

**[自由記述欄]**

- ・ 保育理念・保育目標が「園のしおり」に記載しており、保育における考え方を読み取ることができます。
- ・ 毎月1～2回の職員会議のほか、職員主体の年2回の園内研修や毎日行われるミーティング等において保育理念等を職員に周知しています。その他にも、管理者が中心となって保育方針の周知を目的とした研修等があればなお良いでしょう。
- ・ 保育理念・保育目標は園内の玄関にも掲示して、利用者等に周知していますが、園だより等で管理者が方針を表明したり、定期的に理解を促すようなとりくみがあるとなお良いでしょう。
- ・ 保育課程は園の理念に沿って編成しており、見直し・再編成についても毎年3月から4月にかけて職員が参画して行っています。
- ・ 指導計画の評価は、長期・短期共に記録しており、月案については“子どもの育ち”と“保育者自らの保育”の両面から評価・反省を行っています。
- ・ 毎日の保育内容については、事務室に全クラスのものも掲示しており、保護者に向けても年2回のクラス懇談で説明しています。
- ・ 管理者は、職員会議等で職員に向けて様々な情報を発信するなど自らが果たすべき役割や責任について明文化するとなお良いでしょう。
- ・ 園内委員会（研修委員会・親睦委員会・手作りおもちゃ委員会など）を設置し、保育の質の向上に向けて体制を整備しています。

## II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	C	B
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	C	A
		II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B
	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A	
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	C	B
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	C	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	C	B
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

### 【自由記述欄】

- ・管理者は西京区園長会等の会合に参加し、社会福祉事業全体の動向や地域の状況について具体的に把握しています。
- ・認定こども園に移行する上で、計画性をもって職員の幼稚園教諭免許取得を推進するなど、人員体制についての方針が確立しています。
- ・職員の有給休暇の取得状況は定期的にチェックしており、取りやすい環境となっています。年に1回園長が職員と面談を行い、働きやすい職場にむけて改善策を人員体制に反映しています。
- ・職員研修については、保育課程の「職員の資質向上の取り組み」の中で、職員研修についての考え方を示しており、園が職員に求める基本姿勢が書かれています。
- ・管理者は、個々の職員の今後必要な知識や技能を把握し、高めてほしい知識・技能に合う研修があれば参加をすすめています。今後は、個別の研修計画を作成されればなお良いでしょう。
- ・研修を受講した職員は、報告レポートを作成すると共に、会議において研修発表を行っています。
- ・ゆとりのある人員配置や有給休暇の取得促進など、園長が中心となって働きやすい職場環境作りに熱心に取り組んでいます。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	B	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	C	B
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B

【自由記述欄】

- ・利用者のプライバシー保護にかかる対応マニュアルを整備し、個人情報の流出のないよう、職員への研修を適宜実施して対策を取っています。
- ・苦情解決のしくみについて、園だよりで利用者に周知しており、保護者からの意見等に対し、迅速な対応と丁寧な説明をしています。
- ・職員一人ひとりが保護者と送迎時に細やかにコミュニケーションをとることで、信頼関係を築いており、園全体で情報の共有化がされ、保育に生かしています。
- ・今回、第三者評価を初めて受診されましたので、今後も定期的に受診されることを期待いたします。
- ・入園の際には家庭調査票、健康調査票、生活調査票を作成し、年度の初めに各家庭に変更点の加筆・修正を求めることで、各家庭の状況把握をしています。
- ・転園・卒園にあたり、その後の相談窓口の設置や、担当者の有無などについて園のしおりに記入するなど対応するとお良いでしょう

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	B
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	B	B
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	B
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	B	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

**【自由記述欄】**

- ・健康管理のマニュアルを整備しています。実施した診断結果等の情報を整理し、家庭生活・保育生活へ反映されるようのぞみます。
- ・給食の食材には十分な配慮をし、食育の視点からも評価できます。子どもの喫食状況や食生活の様子を把握するとお良いでしょう。
- ・職員による手作りの用品・遊具等を整備し、安全性への配慮を行っています。今後は、より素材・遊具が自由に活用できるよう保育環境を整備されるとお良いでしょう。
- ・保育の中でも、特に運動表現や造形表現に力を入れており、園内は子どもたちの作品を沢山掲示しています。作品は子どもたちの発達過程に合ったものを取り入れています。
- ・室内環境において、穏やかな関わりとともに、ぬくもりが感じられる環境となるよう職員の手作りの保育用品を整備しています。
- ・園舎の隣には畑があり、園長を中心として保育者と子どもが共に育てた野菜を食事に取り入れるなど、食育活動も熱心に行っています。自園の畑での収穫物の情報を利用者へ向けてアピールしたり、安全性や栄養面を表記した取り組みがあればなお良いでしょう。
- ・子どもの意見表明権に特に配慮しており、保育者も子どもに対して温かい言葉がけをしています。
- ・園内はゆったりとした空気が流れ、5歳児クラスの子どもたちが朝から昼食で使用する玉ねぎの皮むきを楽しそうに行うなど、長時間保育に適した家庭的な雰囲気を感じられます。

#### IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	B
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	B	B
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	B
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	非該当	非該当

#### [自由記述欄]

・年に2回クラス懇談会を実施し、子育てと保育が共通認識のもと実施されるよう、園での子どもの現状と家庭での現状について意見交換を行っています。また、クラスごとにテーマを設定し、学びの場となるよう工夫しています。

・子どもの発達や育児に関すること、保護者との懇談の内容や個人の発達記録については様式の整備等を行い、記録について職員間でばらつきがないよう工夫するとお良いでしょう。

・虐待にかかるマニュアルを整備し、関係機関との連携も行っています。また、日々、子どもや、保護者の変化に気づくよう努力しています。

・保育要録は適切に記録され、小学校と連携を行っています。民生委員・児童委員や自治会関係団体と定期的な連絡会など、地域との連携が行われるとお良いでしょう。

#### IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

#### [自由記述欄]

・衛生管理マニュアル、食中毒対応マニュアルが整備し、適切に運用しています。

・事故防止のためのチェックリストがあり、事故発生時と対策にかかる詳細な記録があります。今後、定期的な評価見直しをするとお良いでしょう。

・事故・災害発生、不審者侵入時にかかる対応マニュアルが整備し、定期的な見直しを行っています。今後は、警察等との連携のもと訓練を行うとお良いでしょう。